農林総合研究センター（畜産試験場）

「能登牛」の枝肉重量を増加するための飼料給与方法（肥育前期）について

1　背景・目的

能登牛の枝肉重量は全国平均を下回って推移しており、枝肉重量の増加による生産性の向上が課題となっている。

これまでの給与方法（日本飼養標準に基づく）では、枝肉重量が小さいことから、肥育前期（10～14 カ月齢）における濃厚飼料の給与量を増加させる方法について検討する。

2　技術のポイント

(1)肥育前期の濃厚飼料は、慣行では月毎に 1.0kg増量するところであるが、月毎に 1.2～1.4kg 増量し、14 ヵ月齢までに 9～10kg/日を給与する。

(2)濃厚飼料摂取量の増加に伴い粗飼料摂取量が減少することから、肥育前期前半（10～12 カ月齢）に輸入チモシー乾草の半量を嗜好性の高い稲ホールクロップサイレージ（稲ＷＣＳ）に置き換えることで、粗飼料の必要摂取量を満たすことが可能である。

(3)稲ＷＣＳは粗タンパク質含有率が低いことから、粗タンパク質を充足させるため、粗タンパク質含有率が高い大豆粕を合わせて給与する。

(4)以上の給与設計により、慣行に比べ出荷月齢が 1 カ月早まり、枝肉重量が増加する（図１、図２）。

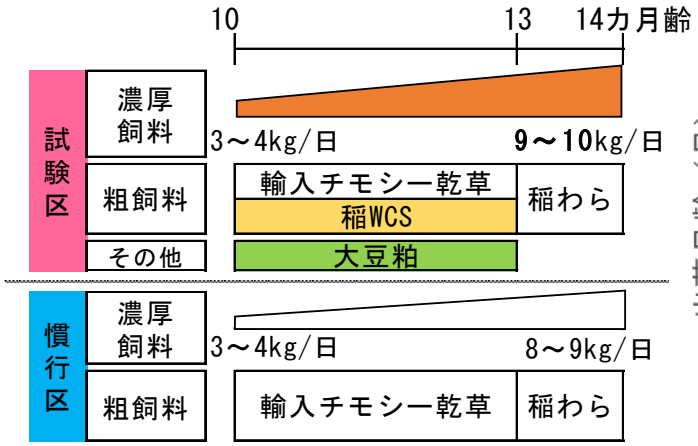

図１. 給与設計（肥育前期）

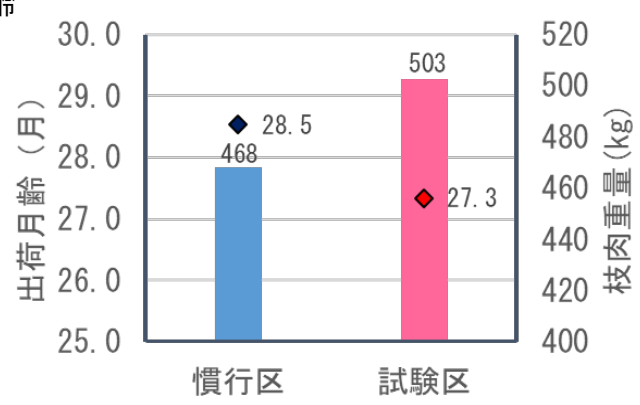

図２. 出荷月齢および枝肉重量

3　成果の活用と残された問題点

肥育前期における粗飼料の一部を稲ＷＣＳに置き換えることで、飼料費の削減が可能である。

問合先：資源安全部　TEL　0767-28-2284
担当者：西川和奈・寺田詩織